

団地の片隅に残った道しるべー又兵衛割の庚申塔ー

所在地 八千代市勝田台南2丁目30

蕨 由 美

勝田台団地ができるまえ、畑や家が点在する松林の台地のあちこちに、いくつもの石碑があつたということであるが、一部が公民館の横の梵天塚に移されたものを除いて、団地造成時に消滅してしまったそうである。

今、唯一かつての台地のたたずまいを留めているのは、近くに又兵衛という野鍛冶が住んでいたことに由来する「又兵衛割」と呼ばれる松林の一角である。昔からの道がY字になった鋭角の先端に、「青面金剛」と刻字された文化元年（1804）建立の庚申塔が据えられ、その背後には、群集塚と墓地が続いている。

その塔の左面には「左下いちば道」、右面に「右うする道」と刻されている。明治15年の迅速測図によると、勝田川の馬橋から続いているこの道は、この三叉路で左右とも台地を横切り、左は成田街道沿いの旧下市場村・今の八坂神社の脇へ、右は同じく成田街道の井野町・今の勝田台駅東側の踏切へ出る。又兵衛割から勝田川を渡った千葉市花見川区横戸の別れ道にも数基の古い道標があり、この道が長沼を経る「ちばみち」と柏井・検見川へ行く「うらとみち」に続く重要な道であったことを示している。

